

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備			
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進			
		3-1-3	成人の学習の推進			
		3-1-4	公民館活動の推進			
		3-1-5	図書館サービスの充実			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等) 生涯学習推進体制の整備は、空調改修工事により約3カ月間休館したため講座開催数は減少しましたが、企業等の新規連携講座を通じて、多様な学習機会を提供しました。またリスキリングに係る事業では語学やICT、社会人のスキル講座の開催を通じて学び直しの機会を提供しました。さらに、ユニバーサルアクセスの実現に向けてレベル別にスマホやタブレット等のICT関連講座を実施し、デジタルデバйд解消に努めました。生涯学習の普及啓発の推進は、新たに連携団体等の講座情報サイトを市ホームページに掲載したほか、リスキリングに係る講座情報はNextStage等に掲載し、講座情報を充実させました。成人の学習の推進は、識字・日本語教室事業は、各教室の実情を踏まえて実施しました。また、日本語教育や多文化共生の理解を深め、地域の人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者の獲得や、活動等へ積極的に参加する人材の発掘に繋げました。公民館活動の推進は、アフターコロナにおいても地域活動への影響が続いていることから、参加人数や開催回数の基準緩和や各地域での創意工夫により、学習機会の確保に努めました。また館長・主事会議等では、現代的課題の解決に向けた企業と連携した講習会の情報提供を行ったほか、こども対象の講習会や地域行事における各館の工夫を紹介することにより、各公民館間での情報共有を図りました。図書館サービスの充実、中条図書館移転に伴い約3か月休館したため、貸出点数は減少しましたが、おにクルぶっくばー開館後は新規利用者也増え、利用は増加傾向にあります。開館前には、開館に向けて期待感を醸成する連携事業を、開館後は複合施設の特性を活かした連携事業や運営を行うなど、新施設のPRや利用促進に努めました。また、12月には、スマートフォンで貸出ができる「スマホde貸出」を開始し、利用者の利便性の向上を図りました。以上から、おおむね各施策の方向性に沿って進行していますが、引き続き学習環境の充実や障害の有無に関わらず学習する環境の整備等を図る必要があるため、「B」評価とします。			R5年度末現在の施策の主な課題		
				課題①	「茨木市生涯学習推進計画」の方向性に基づき、市民ニーズに沿った生涯学習を推進し、また、インターネット等を利用したより効果的な学びに繋げるため、学習環境の更なる充実が必要です。	
				課題②	生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、更なる生涯学習情報を発信し、市民がいつでも学習の機会を選択できる環境を整える必要があります。	
				課題③	識字・日本語教室事業については、多文化共生事業との連携を進めていく必要があります。	
				課題④	現代的課題・地域課題の解決に向けた取組の充実に向けて、民間事業者等のノウハウを生かした講座の開催等についてさらなる情報提供を図る必要があります。	
				課題⑤	障害の有無等に関わらず、誰もが読書に親しめる環境の整備と充実を図るため、読書バリアフリーコーナーの設置などに取り組む必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	きらめき講座については、約3か月の空調改修工事の影響で半期の開催となる中、通年講座回数数の見直し等により学習機会の確保に努めました。また、企業等との新規連携講座として、メイク、掃除、健康等の講座やプラネタリウムを活用した惑星科学の講座を開催し多様な学習機会を提供したほか、リスキリングに係る事業として、語学やICT関連、社会人のスキル講座等を通じて学び直しの機会を提供しました。また、ユニバーサルアクセスの実現に向けて、レベル別ICT関連講座を実施し、デジタルデバйд解消に努めました。 以上のことから概ね順調に推移していますが、新たな講座やイベント等を企画し、生涯学習の機会をさらに提供する必要があるため「b」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		きらめき講座受講者数		人	↗	25, 386	15, 903	27, 000 (R5)
		講座の動画配信数		本	↗	11	4	6 (R5)
		天文観覧室(プラネタリウム)利用者数		人	↗	9, 881	17, 262	10, 000 (R5)

1	取 組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進						
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながる多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	生涯学習情報の発信については、Next Stageの情報掲載数は目標値を上回り、市主催及び各種団体の講座やイベントについて各種公共施設での設置や市ホームページでの掲載により充実した情報提供を行いました。また、学習機会の選択肢の増加を図るため、連携大学等の各種講座情報について市ホームページ内に各種団体のホームページリンクを設定したほか、リスキリングに係る講座情報についてNextStage等での掲載を充実させました。 以上のことから、概ね順調に推移していますが、より多くの生涯学習情報提供に向けて引き続き取組を重ねる必要があるため「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		Next Stage情報掲載数			件	↗	587	582	410(R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取 組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	識字・日本語教室事業については、各教室の実情を踏まえながら実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者の獲得や、活動等へ積極的に参加する人材の発掘に繋げることができました。 以上のことから、順調に事業を進行できましたが、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	973	1, 293	1, 100 (R5)

1	取 組	3-1-4	公民館活動の推進					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	公民館講座については、アフターコロナにおいても地域活動への影響が続いていることから、引き続き参加人数や開催回数の基準緩和や各地域での創意工夫を行うことで、学びの機会の確保に努めました。また館長・主事会議等において、現代的課題の解決に向けた民間事業者と連携した講習会の情報提供を行ったほか、こどもを対象とした講習会や地域行事における各館の工夫を紹介することにより、各公民館間での情報共有を図ることができました。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	様々な工夫のもと住民の主体的な学習活動を支援し、現代的課題等の解決に向けた取組も推進できたことから「a」評価とします。					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		小学校区公民館講座 受講者数		人	↗	1, 982	1, 911	1, 900 (R5)
		小学校区公民館講座等		講座等	↗	347	346	350 (R5)
		講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組によるもの		講座等	↗	39	55	40 (R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取 組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	中条図書館移転に伴い約3か月休館したため、貸出点数は減少しましたが、おにクルぶっくぱーく開館後は新規利用者も増え、利用は増加傾向にあります。開館前には開館に向けて期待感を醸成する連携事業を、開館後は複合施設の特性を活かした連携事業や運営を行うなど、新施設のPRや利用促進に努めました。 12月には、スマートフォンで貸出ができる「スマホde貸出」を開始し、利用者の利便性の向上を図りました。 <u>実登録人数が増え</u> 、子ども読書活動推進の取組も継続して行い、おおむね順調に進んでいることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		資料貸出点数	点	↗	3, 570, 988	3, 476, 804	3, 500, 000 (R6)
		蔵書冊数	冊	→	1, 266, 627	1, 268, 932	1, 250, 000 (R6)

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	・施策全体の進捗状況が良好で、事業成果についても一定の効果をあげており、課題に関わる認識も明確であることから、総合評価「B」が妥当であると考えます。 ・「成人の学習の推進」における識字・日本語教室事業などの社会教育関連講座の参加者数の増加など、目標値を超える内容であり、示されているような課題はあるが「a」評価でも良かったのではないかと。課題として、社会教育振興課と文化振興課の両担当課の連携・協力によって多文化共生事業のさらなる振興を期待する。 ・「公民館活動の推進」について、「a」評価の根拠となっている学習活動支援と現代的課題の解決に向けた取組の内容が判然としない。コミュニティ形成と市民の実生活に即する文化的教養の習得といった学習機会が提供されているかの検証が必要である。民間事業者との連携という外的要因については評価する。 ・「図書館サービスの充実」について、おにクルぶっくぱーくにおける新規利用者数増や「スマホde貸出」などのサービス向上があるが、一方では資料貸出点数は減少している点で評価が「a」というのは少し疑問に思う。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施 策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	対応するSDGs	3 すべての人に健康と福祉を 			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市のスポーツ推進計画に基づき、スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいがづくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	—
		施策関係課			
6	施策内の取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題	
	令和5年度には、SNSなどを活用してスポーツ教室や各種スポーツイベントの情報など、スポーツに関わる情報発信に努めました。その結果、ニューススポーツ体験会等の参加者が令和3年度に比べ2倍以上となるなど成果が上がってきています。 また、子どもたちへのスポーツ機会の拡充として、キッズスポーツフェスタの複数日開催や実施場所を拡大により昨年度の2倍の参加者があり子どもたちがスポーツ競技を始めるきっかけとなりました。 関係団体との連携については、追手門学院大学、スポーツ推進委員協議会、生涯スポーツディレクター協議会、老人クラブ連合会、ニューススポーツ普及会、茨木支援学校と連携しボッチャ交流大会を実施しました。 また、地域スポーツの推進については、総合型地域スポーツクラブの会員数が概ね順調に推移しており、指導者の育成では各公民館区から推薦されるスポーツ推進委員に対して各種研修会への参加を促進するなどにより指導技術の向上を図りました。 以上のことから、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断しますが、スポーツに触れる機会がさらに増加するよう情報発信と環境整備を強化するとともに、引き続き指導者育成のために研修内容の充実等を図る必要があるため総合評価は「B」とします。		課題①	スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。
			課題②	働き世代・子育て世代が気軽に始められるスポーツや子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組が必要です。
			課題③	コロナ禍から回復傾向にあるスポーツ機会をさらに拡大させるため、一層、スポーツ環境の整備に努める必要があります。
			課題④	スポーツ関係団体の連携を図る必要があります。
			課題⑤	スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西勝二	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、年代や障害の有無に関わらず、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。 「する」「観る」「支える」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	スポーツ教室や各種スポーツイベントについてSNS等を活用し情報発信に努めました。その結果、ニュースポーツ体験会等の参加者やスポーツ大会参加者数が概ね順調に増加しており成果が上がってきています。子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験については、キッズスポーツフェスタの複数日開催や実施場所を拡大により昨年度の2倍の参加者があり子どもたちがスポーツ競技を始めるきっかけとなりました。南市民体育館での設備改修による閉鎖の影響で体育館稼働率は減少していますが、その他の期間では順調に取組を進めることができました。以上のことから、概ね順調に推移していますが、市民がスポーツに触れる機会のさらなる拡充のため情報発信と環境整備を強化する必要があるため「b」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		各市民体育館稼働率		%	→	84.0	82.0	80(R5)
		ニュースポーツ体験会等の参加人数		人	↗	1,168	1,552	700(R5)
		市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数		人	↗	10,340	10,419	13,000(R5)

1	取 組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西勝二
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	総合型地域スポーツクラブの会員数は概ね順調に推移しています。また、地域スポーツの推進については、各公民館区から推薦されるスポーツ推進委員に対して各種研修会への参加を促進するなどにより指導者技術の向上を図りました。関係団体との連携については、追手門学院大学やスポーツ推進委員協議会、老人クラブ連合会、茨木支援学校と連携しボッチャ交流大会を実施しました。				
			しかしながら、評価指標の指導者研修会の参加人数が減少したため、研修内容、周知方法、参加対象を拡大するなどの対策を講じ、研修会のさらなる充実を図る必要があるため「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	→	1, 225	1, 338	1, 400 (R5)
		スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	↗	111	76	130 (R5)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	追手門学院大学社会学部 辰本 頼弘 教授					
2	意見等	・取組3-2-1において、SNS等での情報発信を積極的に実施したことによって、ニュースポーツ体験会やスポーツ大会への参加人数に増加が見られることから、今後も積極的なイベント開催のアナウンスの努力をしていただき、「する」「観る」「支える」というスポーツの魅力に寄与してもらいたいと考える。特に、子どもたちのスポーツ実施機会の拡充により、スポーツ活動への興味関心の動機付けを進められたことは評価が高いと考える。 ・取組3-2-2において、スポーツ指導者研修会の参加人数が減少したことは、スポーツ活動の人材育成やネットワークに少なからず支障が出ることも考えられる。広くは家庭のあり方にも影響されるかも知れないが、より積極的な周知が必要であると考え。ただ、総合型地域スポーツクラブの会員数は順調に推移していることから、今後も地域スポーツの拡充に力点を置き進めることが大切であると考え。 ・取組の方向は正当であり、全般的に一定の成果が見られることから、総合評価「B」は妥当であり、「A」評価に近いと考える。					

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			
3	対応するSDGs	4質の高い教育をみんなに 11住み続けられるまちづくりを				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	共創推進課、歴史文化財課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり			
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり			
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成			
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承			
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由（R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等）		R5年度末現在の施策の主な課題	
	おにクルの開館について、プレ事業として、子育て×図書館など機能間連携を図った事業を中心に実施しました。また、開館記念イベントについては、おにクルの開館までに関わった市民を中心に、市民自身がイベントを企画、実施しました。おにクルの開館に関連した事業として、多様な分野や主体と連携した事業を展開したほか、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施しました。開館後も、大学と連携したプロジェクトの実施をすることで、文化芸術活動の新たな拠点として活用しています。また、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ美術教室「maru」を実施したほか、こどもを対象とした文化芸術のワークショップを他の文化事業やおにクル開館関連事業と連携して展開、また川端康成文学館で中高生を対象とした文学講座を開催するなど、こどもたちが多様な文化芸術に触れる機会の拡充に取り組みました。川端康成文学館では、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどにこども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベント及び移動図書館ともしび号でのクイズ等で、広く富士正晴と記念館の周知を行いました。文化財資料館及びキリシタン遺物史料館では、コロナ禍前の活動を再開させたことで入館者数は順調に回復し、銅鐸鋳型発見50周年記念テーマ展の見学者数は昨年度より大幅に増加しました。郷土史料室では地域の史料の収集・整理・保存のほか普及啓発にも取り組んでいます。埋蔵文化財については、発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めています。 以上から、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断しますが、引き続き、多様な主体との交流や連携、「maru」の事業検討、文化財の保護の取組への理解の促進や魅力に触れる機会の提供、文学に関する訴求力のある取組等が必要であるため、総合評価は「B」とします。		課題①	文化芸術を通じた多様な主体の交流・連携を促進することに加え、市民と文化芸術をつなぐ人材を育成する必要があります。
			課題②	おにクルのグランドオープンシリーズ公演や開館1周年記念文化振興イベントの実施にあたっては、これまでの取組を踏まえ、市民にも参画いただける手法について検討を行う必要があります。
			課題③	「maru」については、持続的な実施に向けて事業の実施体制を検討する必要があります。
			課題④	幅広い世代の市民に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけるとともに、多くの市民に本市の文化財の魅力に触れていただく機会を提供する必要があります。
		課題⑤	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要です。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	おにクルの開館に関連した事業として、多様な分野や主体と連携した事業を展開したほか、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施しました。文化芸術団体等の活動や公演への補助である文化振興補助制度を活用し、文化芸術団体や芸術家には活動と交流の場を、市民には鑑賞の場を提供することができました。 以上のことから、 <u>施策の方向性に沿って順調に進んでおり、「a」評価とします。</u>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		市が他の主体と協働・連携して実施する事業数	件	↗	17	18	18 (R6)
		「次なるわたしへ」文化振興補助制度申請件数	件	↗	19	15	—

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

1	取 組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	中央図書館、共創推進課					
4	目 標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	おにクルの開館について、プレ事業として、子育て×図書館など機能間連携を図った事業を中心に実施しました。また、開館記念イベントについては、おにクルの開館までに関わった市民を中心に、市民自身がイベントの内容や広報の方法、館内のツアーなどを企画、実施しました。開館後も、大学と連携した「おにクル×シブス・キャットプロジェクト」等の実施することで、文化芸術活動の新たな拠点として活用しています。 富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベント及び移動図書館ともしび号でのクイズ等で、広く富士正晴と記念館の周知を行いました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	↗	18, 163	17, 598	16, 000 (R6)
		文化振興イベント参加者数	人	↗	12, 925	28, 236	24, 000 (R6)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取 組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成						
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		a	障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ美術教室「maru」を実施したほか、こどもを対象とした文化芸術のワークショップを他の文化事業やおにクル開館関連事業と連携して展開、また川端康成文学館で中高生を対象とした文学講座を開催するなど、こどもたちが多様な文化芸術に触れる機会の拡充に取り組みました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているため「a」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		こども対象の芸術文化講座 参加者数			人	↗	143	151	150(R6)
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数			件	↗	1,765	2,291	1,600(R6)

1	取 組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	前田 聡志
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鑄型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	文化財資料館及びキリシタン遺物史料館では、コロナ禍前の活動を再開させたことで入館者数は順調に回復し、銅鐸鑄型発見50周年記念テーマ展の見学者数は昨年度より大幅に増加しました。これは関連イベントや図録が好評であったこと等が要因に挙げられます。郷土史料室では地域の史料の収集・整理・保存のほか普及啓発にも取り組んでいます。埋蔵文化財については、発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めています。				
			以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、令和6年度は文化財資料館開館40周年を迎えることから、より一層取組を推進する必要があるため「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	1, 886	2, 872	2, 500 (R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取 組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	川端康成文学館において、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどにこども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しましたが、ウォーキングイベントとコラボした昨年度に比べて来館者数は大幅に減少しました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	9,334	6,093	9,000 (R6)
		川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	627	622	1,000 (R6)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	国立民族学博物館 出口 正之 名誉教授
2	意見等	- 令和5年度については「おにクル」の完成・開館という茨木市政上、画期的な年度となった。この点を全体として低く評価しすぎている。総合評価は「A」が相応しい。 - 取組3-3-1では、おにクルの完成に合わせた多忙な時期に、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施した点は高く評価でき「a」の方が適切ではないかと考える。 - 取組3-3-2では、プレ事業として、子育て×図書館等を行い、「静かで音を立ててはいけない図書館」という従来の常識を打ち破る「おにクル」の構造的特徴を先取りしており、「a」評価は適切である。 - 取組3-3-3ではいわゆる「社会的包摂」のプログラムに積極的に取り組み、SDGsへの貢献も大きく、「a」評価は適切である。 - 取組3-3-4では、極めて重要な文化財に対する長期間のコロナ禍の難しい施策を乗り越えており、「b」評価は妥当である。 - 取組3-3-5において、言語表現である文学は、文化のもっとも基礎となる大事な要素である。「郷土への愛着心とブランド形成」は単に入館者数だけで測れるものではなく、継続していく力こそ重要であり、「b」評価は適切である。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する			
3	対応するSDGs	8働きがいも経済成長も 12つくる責任つかう責任				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	産業環境部	部長	下 菌 真一郎	
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—	
		施策関係課	まち魅力発信課、農林課、北部整備推進課			
6	施策内の取組	3-4-1	観光資源の発掘とネットワーク化の推進			
		3-4-2	観光情報の発信を強化			
		3-4-3	官民協働で観光事業を推進			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由 (R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題		
	観光資源を活用したまちづくりにおいては、本市の新たな資源となる「おにクル」が開館し、「ダムパークいばきた」のオープンを控えるという時期を迎え、それらを核に取組を進めました。 観光資源の発掘とネットワーク化の推進については、「おにクル」を中心に周辺への回遊を促進するため近隣の魅力スポットを紹介する冊子の発行や魅力発見ツアーの開催、観光協会と連携したイベント等を通じて、市内の様々な魅力スポットへの誘導やPRを行いました。ただし、阪急観光あるきは、コースを見直した影響も考えられますが、踏破回数が減少したため周知の強化が必要です。北部地域については、「ダムパークいばきた」の活用に向けたワークショップやダムパークいばきたフェスティバルなど、公園を拠点とした活性化に向けた取組により、エリアマネジメント組織の発足にもつながりました。 観光情報の発信強化については、広報誌や市ホームページ・SNSでの発信をはじめ、公共施設や主要駅、鉄道車両内など約180か所へのポスター設置など、関係団体の広報媒体も含め、本市の魅力情報の発信に努めました。 官民協働での観光推進については、茨木フェスティバルや茨木音楽祭、茨木麦音フェストなどの大規模イベントがほぼコロナ禍以前の状況で開催され、様々な主体が活動し、多くの来場者が楽しんでいました。市民等で構成する「茨木まちみレポーター」による冊子の発行、ジャズクラシックフェスティバル、イルミフェスタなど回遊を促進するイベント、若園公園バラ園、安威川ダム等のロケーションを活かしたイベントなど、民間のアイデアや主体性のもと、様々な事業が実施されました。 以上のように、概ね順調に進行していますが、新たな魅力資源を活用し、より広域へのPR、来訪者の市内での回遊・活動・消費の促進につなげる取組が必要であるため、「B」評価とします。		課題①	「ダムパークいばきた」の開業を機に、これまでより広域から多くの来訪が期待できるため、より広く市内への回遊や消費を促進することが重要です。	
			課題②	「ダムパークいばきた」が、多様な人が集いにぎわう拠点となり、市民が誇れるまちの資源となるよう、地域活性化に向けた楽しみ方や使い方といった可能性を探る必要があります。	
			課題③	新たな観光資源である「ダムパークいばきた」のプロモーションについては、目的や方向性に応じて、効果的な手法で情報発信に取り組む必要があります。	
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-4-1	観光資源の発掘とネットワーク化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課、農林課					
4	目 標 (後期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	おにクルからの周遊促進冊子の発行や魅力発見ツアーの開催、観光協会と連携したイベント等を通じて魅力スポットへの誘導やPRを行いました。阪急観光あるきは、コースを見直した影響も考えられますが、踏破回数が減少したため周知の強化が必要です。北部地域については「ダムパークいばきた」の活用に向けたワークショップや「ダムパークいばきたフェスティバル」など、公園を拠点とした活性化に向けた取組により、エリアマネジメント組織の発足にもつながりました。				
			以上、概ね順調に進行していますが、ダムパークいばきたのオープンを機に、周辺への回遊・波及等につなげる必要があることから、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		阪急沿線観光あるき ウォーキングアプリにおける茨木市作成コースの踏破回数	回	↗	359	268	350 (R5)
		「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	340	332	440 (R5)

1	取 組	3-4-2 観光情報の発信を強化							
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利		
3	関係課	まち魅力発信課							
4	目 標 (後期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	広報誌や市ホームページ・SNSでの発信をはじめ、公共施設や主要駅、鉄道車両内など約180か所へのポスター設置など、関係団体の広報媒体も含め、本市の魅力情報の発信に努めました。 以上のことから、概ね順調に進行していますが、新たなまちづくりの動きを契機として、さらに広域にも本市のPRを進める必要があることから「b」評価とします						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		市SNSの総登録者数			件	↗	20,923	22,526	21,500(R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する

1	取 組	3-4-3	官民協働で観光事業を推進						
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利		
3	関係課	まち魅力発信課							
4	目 標 (後期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		a	茨木フェスティバルや茨木音楽祭、茨木麦音フェストなどの大規模イベントがほぼコロナ禍以前の状況で開催され、様々な主体が活動し、多くの来場者が楽しんでいました。市民等で構成する「茨木まちみレポーター」による冊子の発行、ジャズクラシックフェスティバル、イルミフェスタなど回遊を促進するイベント、若園公園バラ園、安威川ダム等のロケーションを活かしたイベントなど、民間のアイデアや主体性のもと、様々な事業が実施されました。11月末に開館したおにクルヤリ・デザイン後の元茨木川緑地の活用も進んでいます。 以上から順調に進行していると判断し、「a」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		主要イベントの集客数			人	→	148,500	196,800	170,000(R5)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	・「おにクル」や「ダムパークいばきた」の開設などの積極的施策があり、本計画で示された各種事業が順調に進展しており、事業成果も見られ、課題認識も確かであることから、総合評価「B」で問題はないと思われる。 ・観光と賑わいの場づくりという地域資源の開発・形成が一体的に取り組まれ、成果をあげていることもあり、もう少し評価を上げてても良いのではないかと。 ・各事業についての取組評価をみても課題把握が明確であり、加えてエリアマネジメント組織の発足に見られるように、次の段階に向かう方策が示されていることを評価したい。 ・課題として示されている阪急観光あるきの踏破回数の減少についての対策、「観光情報の発信の強化」のより広範な対応策が講じられているか、今後の推移をみたいと考える。 ・『「官民協働」で観光事業を推進』については非常に好評のようであり、そのことが集客数の増加に現れている点を評価する。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する			
3	対応するSDGs	17 パートナーシップで目標を達成しよう 				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、様々な分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	人権・男女共生課			
6	施策内の取組	3-5-1	都市間交流の促進			
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由 (R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題		
	都市間交流の促進については、円安や物価高の影響から直接的な交流が難しい社会情勢や事務負担を踏まえ、姉妹都市への市民訪問団は中止しましたが、茨木市国際親善都市協会と連携して、小豆島オーリーブマラソン参加や竹田市歴史文化姉妹都市提携10周年事業を実施し国内姉妹都市との関係強化を図りました。 また国内外の姉妹・友好都市とこどもの絵画・書の交換事業やミネアポリス市とのオンラインミーティング等、多様な交流活動を行い、宿泊施設利用補助制度の利用者数は前年度より大きく増加し、文化的交流及び人的交流を促進することができました。 地域国際化を推進するための環境整備については、コロナ禍での中止を経て再開した「国際交流の集い」において、異文化理解を深める交流ブース出展や日本文化に親しむ体験活動等の充実等を図ったことから、参加者が大幅に増加し、国籍・人種を越えた交流が活発化しました。 また、通訳(翻訳)ボランティア派遣数は減少しましたが、電話・窓口対応における電話通訳サービスを開始し在住外国人の利便性向上を図ったほか、日本語指導を行う実用日本語学習会も継続して実施しました。 以上のことから概ね順調に推移していますが、直接交流などの取組の充実を図る必要があることや、在住外国人への支援について、庁内での情報共有・連携に加えコーディネーター機能を強化することから、「B」評価とします。		課題①	姉妹都市関係にある都市との交流を促進するため、市民訪問団をはじめとした市民レベルでの交流を図り、市民の関心を高めることで、互いの文化の理解を深める必要があります。	
			課題②	在住外国人との交流促進や異文化理解を深めるための取組を関係団体等と連携して行う必要があります。	
			課題③	外国人施策に関わる庁内及び各種団体との連携、調整を図りながら、情報の共有、発信を行い、コーディネーター機能を強化する必要があります。	
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、様々な「つながり」が生まれています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	円安や物価高の影響から都市間交流が難しい社会情勢や事務負担を踏まえ、姉妹都市への市民訪問団は中止しましたが、茨木市国際親善都市協会と連携して、小豆島オーリーブマラソン参加や竹田市歴史文化姉妹都市提携10周年事業を実施し国内姉妹都市との関係強化を図りました。また国内外の姉妹・友好都市とこどもの絵画・書の交換事業やミネアポリス市とのオンラインミーティング等、多様な交流活動を行い、宿泊施設利用補助制度の利用者数は前年度より大きく増加しました。以上のことから概ね順調に推移していますが、社会情勢を踏まえつつ直接交流などの取組の充実を図る必要があることから「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	273	314	300(R5)
		市民訪問団等参加者数(姉妹・友好都市市民訪問団・ミネアポリス体験ツアー)	人	↗	-	0	10(R5)

1	取 組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備						
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	茨木市国際親善都市協会との連携イベントである「国際交流の集い」について、コロナ禍での中止を経て令和5年度に再開し、異文化理解を深める交流ブース出展や日本文化に親しむ体験活動等の充実等から多くの参加者がありました。また、通訳(翻訳)ボランティア派遣数は減少しましたが、電話・窓口対応における電話通訳サービスを開始し在住外国人の利便性向上を図ったほか、日本語指導を行う実用日本語学習会も継続して実施しました。以上のことから概ね順調に推移していますが、在住外国人への支援について、庁内での情報共有・連携に加えコーディネーター機能を強化する必要があることから、「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		国際交流の集い参加者数			人	↗	0	500	400(R5)
		通訳(翻訳)ボランティア派遣数			件	↗	54	31	40(R5)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授					
2	意見等	・事業が順調に進捗し、実績値などにおいて成果が見られ、課題に対する視点も確かである上に、在住外国人の増加に伴う支援活動の必要性という外的な要因の問題に対応しており、総合評価「B」に妥当性がある。 ・都市間交流において、海外の都市との直接的交流に困難な課題があるが、オンラインミーティングの実施などによって対応している点が良く、学校を含めてICTを媒介とした交流に努めてほしい。直接的な交流の場を援助する宿泊施設利用補助制度の利用の拡大などの成果をあげていることについても評価したい。 ・課題で示されているが、国内姉妹都市との交流事例での市民参加に見られるような市民レベルでの交流を積極的に進展させる必要があり、そのための場づくりを行政課題として受け止める姿勢が望まれる。 ・「国際交流の集い」が再開され、在住外国人との異文化理解を進める必要から、より具体的・実質的な活動があったことを評価する。また通訳ボランティアに代わる措置として電話通訳サービスを実施されているが、もっと民間事業者の協力を得るべきである。					